

『出発の年にしよう』

副理事長・東京支部長
酒匂 雅信

新年明けましておめでとうございます。

昨年も組合活動に積極的に御参加いただき、全国各地の貴重なる情報をありがとうございました。

昨年はテレビを見ても新聞を読んでも一年中腹の立つ出来事の多い年でした。政治的にも内政、外交共に指導力が問われる年でした。又、資源が年初から暴れまくりで、価格も契約期間も売手、買手の交渉もなく、一方的な通告で決定する実体ははっきりした一年でした。我々の冷鉄源様も2年ぶりにスクラップから戻ってきました。今年夏までは四万円前後を維持してくれそうです。我々、組合員にとっては力強い見方ですが、一方円高は一向に改善されず、グローバル企業の海外生産は、今年度は拍車がかかかりますが、止める手段がないのに腹が立ちます。昨年末に1月より高炉、電炉の厚板の5～6千円/T値上りが発表されました。又、豪州洪水の影響での原料炭の急騰もあり、2011年度1/4期も更に原料インフレを迎えそうです。高炉は海外生産や資源確保を加速しはじめ、商社も海外の資源投資、加工センターの設立、国内のコイルセンターの集約、シェアリング会社の統廃合等選択と集中を急ぐ予定と、いずれも海外投資を重点に国内は集約と、新興途上国の経済発展にいかにかかわっていくかしかないとの方針で我々シェアリング業には興味がなくなったようです。

今年は永年国内製造業を底辺でささえてきた我々シェアリング業が存続の基盤を揺るがすほどのパラダイムシフトに対応出来るのかが問われる年だと思います。今後5～10年は先進国には経済循環は期待出来ないのも、ただ待っているだけでは何も改善出来ないと思います。我々も環境、エネルギー、水、省エネ等に積極的にかかわり、10年先、20年先をめざし、出発の年にしようではありませんか。

今年は幸にも卯の年、経済も飛び跳ねる兎のごとく戦後卯年の株価は、5回中4回が上昇しており、80%の高い確率で当たっているそうです。新年のエコノミストの予想でも、夏には日経平均は12,500円～14,000円を予想する人が多かった。怒りの寅年から明るい卯年を期待して、我々シャリン

グ業界も、気持を切りかえて進む年にしたいと思っております。

“坂の上の雲を目ざして” 秋山兄弟につづけ！

今年の組合の年次総会は、龍馬にあやかって5月20日、四国は高知で行う予定です。翌日は黒潮カントリーで懇親ゴルフの予定をしております。今からきっちり予定をお願いいたします。

昨年の総会で、高木理事長が約束した温泉つきではありませんが、久々の遠出です。100年に一度あるかないかの大不況を吹っ飛ばすには、明治の英雄三人の力を借りるしかないかな！と言うことで奮って参加をお願いいたします。全国厚板シェアリング工業組合の不況克服総決起大会ですので。

今年もシェアリング工業組合は、メーカー、商社、需要業界、海外情報、全国の情報をみなさまに適時にお伝えするよう努力しますとともに、業界の要望をメーカー商社及びに関係省庁に伝えて、適切な対応をお願いしてまいります。

本年もコンプライアンスを重視し御安全に！

(京浜産業㈱・社長)

『仕分けの効用』

副理事長・大阪支部長

木村 秀明

全国厚板シェアリング工業組合の皆様、新年明けましておめでとうございます。

民主党政権発足当時、最もスポットライトを浴びた“事業仕分け”でしたが、回を重ねるにつれて、輝きと注目度が急激に薄れてきました。その原因の一つとして、一度仕分けされた事業がその後どのような形で決着したのか？ が国民に知らされて無く、一部には名前だけが変わって生き続けている事業もあるといった“フォロー無し”の運用が挙げられます。

年頭の挨拶には相応しくない話題かもしれませんが、以下に弊社で取り組んだ“仕分け”体験をご紹介します。

老朽化が進んだ基幹のシステムを更新するにあたり、システムの基盤を抜本的に改善する計画に取り組みました。企画段階で、社内各部門から必要な機能を整理し、集約した結果、限られた時間と費用で実行が難しい実態が明らかになりました。そこで、社内に加え、システム化を担当するソフトウェア一社の関係者を一堂に集め、“システム機能仕分け”なるものを行いました。

基本的な機能で使用頻度も高いG r、必要性は認められるが、優先度が低いG r、必要性も優先度の低ランクのG r、と3G rに分類し、第一G rに絞り、詳細設計に入りました。その際、システム立ち上げ後に、手直しも含めた第2ステップのシステム機能を再度構築することも併せて約束しました。

第一ステップのシステムを立ち上げ、運用が軌道に乗った時点で、再び社内外の関係者を集めて、必要な機能の整理と方向付けの場を持ちました。驚いた事に、企画段階で、第二G rに分類された機能が何一つ提案されませんでした。

何故、第二G rが浮上しなかったのか？ 理由は？

第一G rの機能で、日常の業務に支障が生じなかった。

システムの導入に伴って、仕事のやり方が変わった。

第二G rで想定したケースの発生頻度が低く、運用で解決出来た。

等々が挙げられますが、ムダな時間と費用が削減出来たのは、大きな成果でし

た。

更に、“システム機能仕分け”の効果を考えてみますと、大きく以下の3点があります。

その1は、人が掌握できる規模のシステム化範囲であった為、機能相互の干渉と影響をチェック出来、立ち上げ時のトラブルを最小限に抑えられた事。ゼロベースから膨大な機能を盛り込んだシステムが、立ち上げ段階のトラブルで戦力化が大幅に遅れたとの事例は、世の中少なくともありません。

その2は、システム構成が単純であるがゆえに、修正と機能の追加が容易な事。立ち上げ後のメンテナンスが容易な事は優れたシステムの必須条件といえます。

その3は、“システム機能仕分け”を通じて、仕事のやり方を考えるようになった事。システムに則って仕事すれば、楽に効率的に課題解決が出来ると実感出来、自身の仕事の棚卸にも繋がったのは事実です。

以上が、中小企業の“小さな成功体験”です。

三菱東京UFJ銀行が発信している“経済レビュー”の2011年日本経済の展望の記述の中に、『新成長戦略、財政運営戦略を画餅に終わらせてならない

(1)「新成長戦略」及び「財政運営戦略」の策定はまずまずの第一歩

(2)政治のリーダーシップと民間の創意工夫を両輪に新成長モデルの確立に』を受け、今年“民間の創意工夫”で、我々は勝負しなければと決意しました。

また同じレポートの末尾に、

『今年の干支「辛卯（かのう・う）」の字義からは「新陳代謝により新たな発展に向かう」との解釈が導き出される。2011年は、日本の経済構造を世界の潮流に対応した新しい成長モデルに組み替え、再浮上に向けた歩みを進める年とする事を期したい。』とのアピールに背中を押され、大阪支部の新成長モデルの構築に努力します。

(株)日鐵神鋼シャーリング・社長)

『新しい名古屋の夜明け』を願う

副理事長・東海支部長
林 光雄

皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年、当地が「名古屋開府400年」を迎えたことをお話ししました。その後色々なイベントがあり、10月にはCOP10(生物多様性条約国会議)が名古屋市内で長期間開催されました。イベントも終了し、流石の「イベント大好き名古屋」も、今は何にもありません。

鋼材需要としては、自動車・産建機・工作機械向けはソコソコあるのですが、「開府400年」にも関わらず、東海地区の建築需要は日を追って減少し続けています。今は400年間経験したことの無い「建築無風」状態であります。

しかし、ここに来て漸くこの秋からの大型案件が見えて来ました。名古屋駅前の摩天楼化が再開するのです。2012年度は地上40階、地下3階の高層棟(高さ210m)と地上13階、地下1階の低層棟(70m)から構成されたビルが建設開始となります。その後、2015年度完成予定で、駅前の大名古屋ビルヂング立替え(地上38階、地下4階)や2016年度完成予定で、地上46階、地下6階のオフィス・ホテルが計画されています。

2016年度完成の新ビルには、ヨドバシカメラが9~11階に進出する予定で、これで名古屋駅前がエイデン、ヤマダ電機、ビックカメラ、ドヨバシカメラと4強が揃う事になります。大きなインパクトが生まれ、駅西地区、栄地区、郊外都市に波及していくものと考えられます。事実、栄の松坂屋や三越が相次いで大改装計画を表明しました。

加えて、2012年秋からの駅前案件では、同時にリニア新幹線の駅作りがスタートします。リニア新幹線の計画概要もアラアラ見えてきました。即ち2027年までに東京~名古屋間を完成させる事。東京~大阪までは2045年開業を目指している事。東京~名古屋までのルートは、甲府・飯田・中津川の各駅が現行で言えば「こだま」用停車駅である事。総工費は5,5兆円である事。

尚、岐阜県中津川から名古屋までは、全て大深度地下(50m)のトンネルとなるようで、その第一弾の工事が、名古屋駅前からこの秋スタートする訳です。東京~名古屋間286キロは現行「のぞみ」級で、僅か40分で直結する

見込みであります。

これが完成すれば、名古屋の都市機能の在り方も大きな影響を受ける事でしょう。東京の1つの郊外となるのか、それとも、独自の機能を発揮する街になるのかの分かれ目であります。当地としては、独自の個性を伸ばす必要があり、地域発展の起爆剤とする絶好のチャンスを得たと思います。これを「吉」として捉え、当地の次の発展に活かすことが肝心であり、我々もそうなるように取り組みたいと考えております。2027年までが勝負であり、本年が新しい「名古屋の夜明け」元年となるよう願っておる次第であります。

(三和鐵鋼(株)・社長)

『 勇 気 百 倍 』

副理事長・九州支部長

木村 昭夫

新年明けましておめでとうございます。

年が明けた。今年こそ良い年であってほしいとの願いを込めて、役員一同、新年早々に「神功皇后」をお祀りした「宮地嶽神社」に参拝。祈願。力が入る。それにしても、昨年は大変辛い年であった。会社にとって、大きな決断をしなければならぬ事態に直面した。

しかも、これでもか、これでもかと言わんばかりに、内容は異なるものの、1年間に3度も断行せざるを得なかった。さすがに「精神バランス」が狂った。五木寛之の著「人間の覚悟」を何度も読み返した。

リーマンショック後の当地、九州エリアでの溶断業の急激かつ長期間に亘る、落ち込み・冷え込み、それに起因する狭いエリア内での過当競争、悲惨な競争には目を覆いたくなる。大半の業種が回復傾向にある中で、溶断業のみが完全に取り残されてしまった様だ。

日本の産業を牽引している自動車や弱電、建機の世界とは、無縁に近い。結果、同業者のほとんどが、この2年間で今までの蓄積を無くしてしまったのではないかと喧伝される始末。

全国厚板シャリング工業組合／九州支部 例会では支部の基本理念である「信頼と協調」をベースとして、「需給バランスに合った新しい生産体制の再構築」や「適正な加工賃（値差）の考え方」などをテーマとして真剣に各社の「思い」を話し合ってきた。すなわち、このままでは九州エリアでは、溶断業が事業として成り立たなくなるとの危機意識を皆が共有していたからである。「不治の病」ではない。勿論、治療法は各社固有の対処が必要である。

現状分析は、

1、「循環型不況サイクル」でしばらく辛抱していれば 又、回復期が来る。

従い、中小企業金融円滑化法を十分に活用し、出来る限りの時間を稼ぐ。

2、「構造的問題」。もう昔には戻らない。かつ、円高や少子高齢化が後押しをしている。の2つに集約される。

さて、経営者はどう判断すればいいのか。2分されるであろう。結果は数年

後に出る。

地方はどうしても建設分野への依存が高い。「コンクリートから人へ」の民主党政策は見事に浸透しつつある。又、大手民間デベロッパーの活動余地が極めて少ない地方では、政治に無関心でおれなくなる。そんな事をぼんやり考えていると、社員が部屋に入って来た。

何か話がある様子。屈託のない笑顔である。

これだ。この笑顔がもう一度、夢のある溶断業界に引っ張ってくれるのだ。溶断業の役割はまだ終わっていない。

経営者にとって一番の活力源は「社員の笑顔」である。

「勇気百倍」となって力が湧いてくる。

「坂の下の雲」を見ていても仕方ない。

上を向いて天に向かって大きく、二拝二拍手一拝。

新年が全ての全国厚板シャリング工業組合員にとって良い年になります様に。

(豊鋼材工業㈱・社長)

『革新と継続』

理事・総務委員長

吉里 勉

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

年頭にあたりましては、やはり、市況の好転を祈念したいと思います。

今年は卯年、うさぎに関しては古今東西たくさんの寓話、諺があるようです。少し並べてみます。

ギリシャ、ローマでは皆がよく知っている

- ・ウサギとカメ（イソップ寓話・ギリシャ）
- ・二兎追うものは一兎をも得ず（ローマ）

中国はこれもポピュラーな

- ・守株（韓非子の守株待兎）
- ・始めは処女の如く後は脱兎の如し（孫子の兵法）

「油断させて脱兎の如く逃げろ」が兵法の教えるところのようだ。

日本にも多くあるようで

- ・兎に祭文（馬の耳に念仏に同じ）
- ・兎の糞（長続きしない）
- ・兎兵法（実用的でない）

等々うさぎには迷惑なものもあるが

- ・脱兎の如く（昔はダットサンの看板に兎がいた）
- ・兎の上り坂（順調は進行）

といった元気なものもある。

私は田舎で育ったので周りに兎を飼っている人が結構いた。記憶ではたしか兎は多産系だと思っていたが、やはり、豊穰、安産のシンボルのようでおめでたい生き物だ。西洋でも同じように扱われていたようで、そこから何段論法かあってバニーガールに繋がっているという説もあるようだ。肖りたいものです。

また、兎の絵には耳を真っ直ぐ上に向けているものがよくある。

・兎耳 はいい意味には使われないと思うが、情報をすばやくキャッチすることは今非常に大事なことだ。

業界を取り巻く環境が急激に悪化して3年目になります。今年はまさしく正念場になります。「うさぎ」の諺に学ぶとしたりまず、

- ・「守株」と「脱兎」です。過去の幸運が忘れられず旧態依然のままでは乗り切れません。「脱兎」の如き勢いで革新を図らなければならないと思います。つぎは相反するのですが
- ・「ウサギとカメ」のカメです。「継続は力」ということだと思います。基本的なこと、技能、技術を進める。品質、デリバリーを改善するという努力の継続は怠ってはならないと思います。

「革新と継続」を今まで以上に強く意識する年になると思います。

今年もよろしく願いいたします。ご安全に。

(JFE 鋼材株)・社長)

『去らない景気冬将軍』

理事・新潟支部長
真柄 修

明けましておめでとうございます。

新潟に着任して、5度目の正月を迎えました。昨年は12月15日に初雪が降りましたが、奇しくも一昨年と同日となりました。例年と比しては遅い初雪となりました。当地の天候は、初雪から3月初旬まで、雪、風、雨、雷が活躍し、荒れ模様が続きます。しかしこの冬将軍は、3ヶ月程度居座るだけで、すぐに暖かい春を迎えます。少しの間我慢すれば、草木が一斉に芽吹き、桜花・チューリップ等々が咲き誇り、素晴らしいシーズンとなります。新潟の春は本当に良いですよ。是非、皆さんも機会を作って頂き、お出で下さいませ。

一方、肝心の景気は、もう2年間も回復せず、冬将軍が居座り続けています。

昨年の一時期、雨・風が止みそうな気配もあったのですが、すぐに暴風雪に変わってしまい、今も荒れ狂っております。こんなに長い失速状態は初めてのようになります。循環型経済不況に陥っているのではなく、構造型不況に直面しているのではないのでしょうか。

当地においては、従来秋口から生産活動が活発化し、需要も増大する[秋需]が発生しておりましたが、一昨年、昨年と不発に終わりました。[秋需]は無くなりましたが、例年通りの[冬枯れ]は発生しております。まだまだ地方経済は疲弊して行きそうです。当地区の稼働状況は、現在50%-60%程度です。リーマンショック後の急激な需要減に対応すべく当社も、70%程度であれば、赤字に陥らない生産体制を昨年の上期に構築しましたが、それ以上に稼働率が落ちており、再度60%レベルでの生産・販売体制を検討しております。

さて、政府が声高に掲げている[雇用は守る]政策の実行状態はどうなっているのでしょうか。このような景気の状態、企業の収益状態では、経営は[会社の存続が第一]で、生き残りの為には[雇用を犠牲]にしても、過酷な手段を選択しなければならない状況に追い込まれております。

経営者は、もちろん社員の生活を守る事を第一義に考え、経営政策の重大決定をしている訳ですが、このような収益状況では、会社生き残りの為、全体最適の為、一部の社員の[雇用は保障できない]ところまで来ているのではないで

しょうか。景気対策は、確かに円高問題、少子高齢化問題、財政赤字問題等々があり、ハードルが高く、非常な難問になっておりますが、生活を守る、暮らしを守る観点からみれば、焦眉の急であるはずで、地方経済は、自立する力を失いつつあり、一刻も早い適切な景気刺激策の実行が待たれています。

この寄稿文を書いている、このような中身も3年連続だなど溜め息ができています。今年[兎年]。兎は、後ろ足が非常に発達している為、後退りが出来ないと言われているそうです。

是非、兎にあやかり今年こそは後退りすることのない、景気も会社収益も前進のみの年にしたいものです。兎に因んでの初夢にならないようにしたいですね。

(新潟スチール(株)・社長)

『内憂外患』

理事・神姫支部長
齊藤 淳泰

新年明けましておめでとうございます。

平成23年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

昨年を4文字熟語で表すなら、まさに『内憂外患』そのものでしたね。国民の期待を背負って誕生した政権交代も政治と金の問題はじめ政権公約に呪縛されたばら撒き政治、コンクリートから人へとは聞こえは良いが経済対策は二次。小鳩体制は僅か8ヶ月余りで交代したが、参院選で惨敗後はリーダーシップの欠如からブレ捲くった政治と失言。挙句の果ては国民不在の権力抗争に発展。とどのつまりは、「今までは仮免中だったが、本免許になった」ではこの国は何時になったら若葉マークが取れる真の政治が行われるのだろうかと疑心暗鬼になります。

外に目を向けると尖閣巡り日中緊迫、朝鮮半島危機、北方領土問題、何よりも日本の安全保障は如何に担保されるのか何の具体策も見えてこない現状・・・あーそれに円高に株安、産業の空洞化、資源高騰による材料高ながら製品安、その上需要減による工賃安、短納期に過剰なる品質要求、外に打って出られない我々厚板シェアリング業界はどうすりゃーいいの？

初夢ならず初ボヤキ。

私が折々に書き留めている昔の雑記帳を紐解くと、今から15年前の平成9年11月1日の朝日新聞の天声人語「色々学びました。人間はつましく暮らさなければいけないと、用心深くなければいけないこと。身のほどをわきまえること。みんなその通りにやってきたわ。」昭和4年の大恐慌を生き抜いてきた当時89歳の老女の言葉。今年の我々の業界は、含蓄深い老女の言葉を噛み締めて強かに生き抜きたいと思います。

雑記帳からもう一つ「開口便笑 笑古笑今 凡事付诸一笑』（人に会ってはまず笑おう。昔を笑い、今を笑う。何事も皆笑って対応することだ）【平成21年8月21日・日経新聞夕刊の交遊抄から】

工業組合会員諸兄の皆さん！

非常に厳しい環境の悪い平成23年の年明けですが、心だけはきっと今年は良

新春に寄せて

平成23年1月

い年になると信じるどころから事始とし、お互いに笑って何事も対応していき
ましょう。

(齊藤鋼材㈱・社長)

『社会も業界も「絆」で再生』

理事・中国支部長
浅利 重法

皆さん、あけましておめでとうございます。

平成22年度の鉄鋼業は、自動車・家電エコ製品需要に牽引された製造業の増、アジア向け輸出の増と前年在庫調整の戻りで全国粗鋼生産は1億1千万tまで回復し、平成23年度についても国内消費は製造業の落ち込みを建設部門の回復でカバーし前年横ばい、輸出もアジアの旺盛な需要を背景に前年水準を維持し全体として粗鋼生産1億1千万t程度とみられています。厚板についても引き続き需要は堅調で韓国ミルの供給拡大はあるもデリバリーはタイトと推測されます。

われわれ中小鋼材加工業からみれば、従来であればこうした環境下ではある程度の事業見通しはたてることができたはずですが。しかし昨年あたりから、マーケットが劇的にかわり、鉄鉱石原料炭価格の乱高下～鋼材価格の短期大幅変動～顧客シェアの変動と落ち着きのない商環境が常態化してきました。価格を動かすことで利鞘をかせぐ連中に巧妙に仕組まれていることに憤りを覚えますが、鋼材(含む切板)を取り扱う我々自身の問題も大きいと思います。「価格は市場が決める」は基本原理ではありますが、責任ある価格の貫徹は継続操業する製造業の生命線だと思います。

自身30年間、いろんな分野向けの構造材、機能材について価格のあり方を顧客とともに考え理解をもとめるなかで多くのことを学んできました。家電量販店のように「他店よりいくら安く」なら鋼材営業マンに頭は不要です。紐付き鋼材、切板ビジネスは少なくとも顧客との対話のうえに成り立つ「価値・価格」を大切にすることはなかったでしょうか？ さらにいえば最近「他の店がいくらか」がわからなくなってきたようです。コンプライアンス強化・談合廃絶の賜物でしょうが需給変動時の価格の乱高下を助長し「そこそこの価格」に落ち着きません。これは売る側買う側双方にとっても明らかにロスであります。

話が逸れますが年末のTVで高齢者孤独死、児童虐待、いじめ問題が論じられていました。本来「群れる動物」である人間が孤立することによる組織の崩壊が根底にあるということでした。これらの社会問題の解決のためには、犯罪

撲滅にも寄与する「絆の強い地域社会の再生」が喫緊の課題でありましょう。絆を遮断するという意味でこの対極にあるのが個人情報保護というバカ法と過度なコンプライアンス接触制限であります。われわれ鉄の業界の閉塞感・弱体化が何となく日本社会全体の衰退と重なり危機感が高まりますが、市場原理に翻弄され勝者・敗者を隔絶し自己責任を強調する不安定な社会の到来を誰も望みません。処方箋は地域社会再生・・・向う三軒両隣で互いにお節介をやくことから始める・・・と軌を一にします。競争と共生のバランス―共生に重点を置いた―「絆」がキーワードです。鉄鋼技術については西日本では瀬戸内リーグという高炉間の技術情報交換の場があり切磋琢磨していた時代もありました。中国は今それを国が推進しています。また日米構造協議以前は「良い談合―今は死語ですが」もあったとききます。いまこそ需要業界・供給業界双方に“長期視点での有用な仕掛け”が本当に必要だと思います。

そしてコンプライアンス。シェアリング業界もミルメーカー系、商社系シャーは親会社の管理が厳格化の一途と思われれます。しかし、従業員100名未満の会社は経営者が全従業員と直接対話・監視（嫌な言葉です）できますし、できなければ経営者ではありません。不正を行う従業員を前提にした防衛システムをいかに構築しても綻びは必ずあります。不正を許さない善意の組織を維持することに全力を注ぐべきでしょう。中小企業では社員の生活環境などを理解してプロテクトしながら育成していくことがいかに大切か？つよい絆の共同体をつくり、守るためには個人情報保護なんて言ってもらえません。

坂のうえに白い雲は見えませんが厚板溶断業が永遠にわが国の産業に必要であることは自明であり、雌伏の期間といえども地方にも耐震ビルは建ち、橋は架かります。船はドッグから順次進水します。業界各社が「絆」による共生を意識し一段の創意と工夫で付加価値を高め今年一年をのりきっていくことをころから望んでいます。

最後に、広島/流川で評判のよかった「暮らしと鉄の結びつき―安芸の10リ」を再度お届けします。飲みニケーションの話題にどうぞ。（針はり、錐きり、銚もり、鑊やり、錨いかり、鑪やすり、鎖くさり、鋸のこぎり、釣針つりばり、剃刀かみそり）。

（太陽シャーリング㈱・社長）

『ドバイ 駆け歩る記。そして日本』

理事・東京支部 最高顧問
大川 宏之

新年明けましておめでとうございます。

厳しい環境の中におり、そして方向性が見えない不安定な政治情勢もあり、あまりいい気持ちのお正月ではありませんが、皆様はどの様に新年を迎えられましたでしょうか。

私は喜寿も過ぎ少し勝手に人生を生きてみたいと思い、駆け足の休日をアラブ首長国連邦の副大統領国ドバイで過ごして来ました。

「ドバイ」はアラビア半島のペルシャ湾の海岸に位置します。中東での金融センターであり、人口は220万人程、但し住民の80%は外国人、イスラム教国ですがかなり自由な面もある様です。石油の発見から興った国なのでその歴史はたかだか50年位。特に21世紀に入ってから的发展は近代化、高い経済成長率、摩天楼ビル群と絵画的な街の様相は夢の街、未来都市を創造している。そんな予備知識もあり、今私が世界で一番訪問してみたいところでした。エミレーツ航空で到着すると、巨大なドバイ空港の考えられない大きさ、そして人の出入りと、24時間空港の活気に圧倒されました。入国手続前に泊まれる空港内のドバイインターナショナルホテルの世界時計に残念ながら東京がないことに、まずショックです。

また、とにかく王様が「世界一」が好きと云うことで、世界一のものが沢山ある。まずは、ノッポビル。828mの高さで、タワーではない生活空間のあるビルだからすごい。440mの高さにある展望台も素晴らしい。そしてホテル群。客室数最大に加え、スイートばかりの客室のホテルもあり、大きさだけでなくすごさだ。7ツ星ホテルもあり、昨年完成のアルマーニホテル、他にもバージュ・アル・アラブ、ワン&オンリー、ロイヤルミラージュ、ジュメイラビーチホテル、アルカスル。私が泊まったのはグランドハイヤットドバイだが、ここだってすごい。ホテルのある人工島パームジュベイラはナツメヤシの葉を模った島となっている。この造形美は衛星からも見えるそうだ。何故こんな形にと聴いたら海岸線を長くする為で、プライベートビーチのある1,500の

住宅と2, 500室もの客室を有するレジデンスが存在する。街の真中で観た噴水ショーはラスベガスのベラージオホテルの前の噴水をもっと大きくした素晴らしいショーだ。

世界一はまだある。ドバイモール、世界のブランド店が軒を並べる。ゴールドスークもスパイススークもある。道路は部分的には片側8車線のところもあった。水族館だって世界の1位と2位の大水槽を持っていると云う。ただ、石油で大きくした都市だけに不安も・・・と思う。現在は石油への経済依存度は2%と云っていたが、それでは何で繁栄をと考えると、ニューヨークの摩天楼都市機能とラスベガスのエンターテイメントとハワイのラグジュアリーなのかなど私は思う。この街は中東のハブとして金融も港湾も空港も世界一を目指すことで中心となって行く。昨年訪れたシンガポールにもそれは云えるのではないだろうか。ドバイをもっと分析し、正確に理解しなければとも思う。但し、世界一のビル建設に携わったのが韓国のサムスンであり、建設の人々の写真が飾られているのを見ると、一寸淋しさを感じるのは致し方あるまい。

今迄は海外から成田の上空に戻った時、緑が多く、土地が整備され、勤勉な人々、心やさしき人情の国、日本はやはり素晴らしい、ホッとすると感じるのだが、今回はそう思わなかった。二番では駄目なんですか、と云う世界観のない大臣を持ち、10時以降は騒音公害で飛行機も発着出来ない日本。住民エゴとだけは云えないが世界からはどんどん遅れる。そして、民主主義をはき違えたのか権利を主張し義務を考えない国民に育ててしまった戦後の教育。半世紀以上に亘って、戦争責任を引きずり、世界に贖罪の姿勢ばかりで現代史を教えなかったこと。今、社会主義国化しているのにまだ民主主義国だと思っている国民。勤勉な青年は古い、豊かさの中では海外への雄飛もためらうような過保護で草食型と云われる若者しか育てられなかった私達老いの世代。自分達は一生懸命やって来たと思う。しかし、それが次世代を育て世界へ目を向けさせ得たかと思うと自責の念にもさらされた成田上空でもありました。

(芝浦シヤリング(株)・会長)